

童

2016年3月1日。

蒔の赤ちゃんやクロッカスの芽が、いよいよ顔を出してきた2月下旬。このまま春が来るの？と疑問を持ちながら暮らしてきた2月中旬から、やはり予想通り、今年は早い春が来たようです。

1月中旬の本格的な雪の訪れの時、今年は毎日徹底的にソリ遊びを中心に雪遊びをやるかと決めておいたことが、良かったと思うこの頃です。今冬は、大地から雄飛君の家に続く雑木林の道（親子雪遊びで遊んだ道）でソリ遊びと言えばここで徹底的に遊びました。お蔭で、そり技術はもちろん、そりゲレンデ状態も、日毎によく滑る状態となり、かなりスリリングに遊び、いつも歓声が森にこだましていました。

クロカンも、回数は少なかったのですが、田んぼ方面まで足を延ばすことができました。回数でも技術でもなく、その内容、質であることは、先日の戸隠鏡池クロカンでも証明された事だと思います。その鏡池。素晴らしかったですね。もちろん天候の素晴らしさ。暖冬少雪で状態が心配されましたが、前夜からの奇跡的な降雪、そして、真っ青な青空と好天。まさに神がかり的な逆転サヨナラの、衝撃的な感動的な幕開けでした。

昨年末のクリスマスマーケットの勢いが、再び彷彿してきたような、子どもたちのお店屋さんごっこやお話会や大人のアルプスキー、年長児の証書作りやご存じ鏡池クロカン等の大人も子供も熱くなる日常！！これらの熱さが、雪解けを増長させて春を早く呼び込んでいるのではないかと懸念させるほどのものです。

しかし、子どもたちにとっては、やはり、魅力なのは春よりも雪のある冬のように。まだまだ大人たちの熱さには負けずに、子どもたちに熱い冬を満喫させたいという矛盾と闘う微妙な季節を迎えています。どちらにしても、熱い日常は最高です！！



【親孝行】

2月中旬の寒中休み。妻の母親が91歳の誕生日を祝い、城崎温泉へ2泊3日へ出かけてきました。前日の夕方から、軽自動車で京都へ。初めて軽で行きましたが、これが快適で家から（いつも車庫からハイエースの乗り換え）直接出発し、しかもいつもの買い物気分が燃費良く、京都にストレスなく到着できました。この91歳の義母も、足がちょっと不自由（杖があれば元気に自立歩行できます）な以外、全て健康！！そして何よりも仏様の申し子のように、穏やかで器が大きく、しかも謙虚で上品な人柄。この母親だけに、妻の素晴らしさがわかります！！

日常の買い物の気分で、義母と3人で、4時間位かけて城崎温泉へドライブして出かけました。今回は、妻はゆっくり母親の子どもの頃の話聞くことを計画していたのか、義母は、家系図や子どもの頃住んでいた家の見取り図や配置図などを準備してきており、それを中心に、2日の晩に渡って夜遅くまで、インタビューのように話していました。素晴らしい親子だと感心していました。戦前の疎開や戦中、敗戦 戦後の話、戦前には、代用教員をして、そして、学校に通い、免許を取り、正規教員となり、授業していたこと、先日教え子（かなり高齢！！）が訪ねてきたこと・・・などを聞くにつけ、その人柄人格の裏付けが取れました。91歳と言う年齢の歴史は、やはり半端じゃないし、さすがに重いです。

城崎温泉には、有名な6つの外湯があります。前日の晩遅かったのに、2日目の朝も元気いっぱい。外湯の一つでも入れればと思い、外湯巡りへ。一つ一つ趣のある建物の外湯。妻はいつも一緒に杖替わりになって、一緒に寄り添って歩く姿は、時の流れを感じさせると共に、親子の姿や人間としての平和、つながり、ひととしての魂の世界を彷彿させてくれました。そして、夕方までに、何と4つの外湯に入ってしまったのです！！外湯に入り、着替えて、出て、また、違う外湯へ移動して また着替えて、風呂に入る というこの湯治を、91歳の義母が楽しんでしまう事はすごい事です。そして、その夜も、遅くまで話していました。

食欲もあり、美味しいものや珍しいものも大好きなので、それらを味わって上品に食べます。今回の宿は、自炊設備にある温泉付きリゾートマンションでしたので、美味しい食材を購入してきて、ゆっくり食べることができました。昼間は、温泉巡りや寺巡り（妻の実家は、総本山なので、特に関西に末寺があり、城崎にも末寺があり、ここも訪れました）を楽しみ、味覚を楽しみ、夜は、ゆっくりと親子で会話を楽しんだ旅。とても趣のある親子の深さを感じた旅でした。

隠れたポイントは、軽自動車！！ 日常の暮らしの延長、普段着の暮らし、そして、狭い城崎の土地でも、いつものようにすいすいとどこでも興味のむくまま入っていける気軽さ。このお蔭でフットワーク軽く、あちこち、気分的にも、機動的にも、穏やかに過ごすことができました。

更に、京都へ戻る途中、思い出深い末寺があるので、こちらへできたら寄ってみたい（奥ゆかしい謙虚な人柄なので、どうしてもと言わない！？ ここが青ちゃんとは違う！！）とつぶやいたので、この状況（この謙虚な上品なスタンスならば一肌脱ぐのが青ちゃんの役目でしょう）に即応して、いきなりこの末寺へ。電話もかけずにいきなり訪ねました。義母は足が不自由なので、まず、妻と私がいきなり玄関を訪問。知らない訪問者なので、いぶかしげな顔をされましたが、後ろにつつましやかにいる義母を見た瞬間、いきなり歓声を上げ、まるで仏様に会われたかのように、駆け寄って手を握られた光景は、まさに、この義母の人柄を表しているかのようでした。ここで、お茶を頂きながら、それらの会話から、更に、義母の素晴らしさを知る機会となりました。

京都の寺 実家へ無事戻ってきて、旅の話をする、まるで武勇伝を聞くかのように、実家の人達は驚いていました。この年齢で、すごい行動的な事をしてきたと、逆に疲れてしんどくなるのではないかと心配されたほどです。後日、電話して、普段と変わらないと聞いてほっとしましたが、さすが、この91歳は、只者ではありませんでした。

親孝行、様々な形での孝行はありますが、じっくりとその親の生き立ちを聞き取る、会話する、人生の哲学を感じ取る、そのための資料を準備する（してもらおう）などを考えた妻は、すごいと感じました。まさに、これぞ、年齢を重ねた親と過ごす原点か。

何よりも、この慈悲深い奥ゆかしいしかも好奇心旺盛な秘めたエネルギーを持つ91歳の元気な義母から生まれ、育てられた妻は、更にすごいかもしれない。この91歳は、まさに妻のおおよそ30年後の姿か！！きっと、子どもたちに、終わりなきお話を語り続けているのか、それとも絵本を読んでいるのか、それとも、美味しいものを食べ歩いているのか、それとも、野山を歩いているのか！？

たぶん間違いないのは、慈悲深い彼女の事だから、見捨てずに介護施設に入れることなく、青ちゃんをいつも傍で、介護している姿があることでしょう。